



発行所
財団法人 漁船海難遺児育英会
〒101 東京都千代田区神田
2丁目2番1号
鎌倉河津ビル6階
電話 03(3256)1981
FAX 03(3256)1982
水色の羽根募金運動

楽しかった幼稚園



幼稚園(五才児)
長 啓太
(お母さん代筆)

ぼくの家は七人かぞくです。お母さん、おばあちゃん、お兄ちゃんが三人とぼくと妹です。お父さんが船でなくなったときのことは、ぼくは知りません。一才と八ヶ月でした。それが今年小学校一年生になります。

幼稚園は楽しいことばかりでした。春のえんそく、おたんじょう日会、夏休みは親子のふれあいで三田浜にいかすいよくに行き、ぼくもお母さんともまっくらに日やけしました。ともだちといっしょに地引網の中の魚をとったり、昼になればバーベキュー大会、肉、イカ、たまねぎ、とうもろこし、いろいろやいてあついのをフーフーいって食べたこと、秋のうんどう会、

関東・北陸ブロック担当者会議 有意義な意見交換、提言行われる

本会では、二月二十三日、新潟市「マルコイン・新潟」において、漁船海難遺児育英事業事務担当者ブロック会議を開催しました。

当日は、関東・北陸ブロックの漁船海難遺児を励ます地方協議会事務局担当の七都県漁連・指導協会の職員並びに開催地の新潟県漁連・川瀬専務理事、新潟県漁連・中村会長(全国漁連副会長及び、漁船海難遺児を励ます全国協議会事務局担当の全漁連漁政部・熊谷課長役、育英会からは稲垣専務理事ほか、計十五名の関係者が出席して熱心な討議が行われました。協議の概要は、次のとおりです。

かけっこで一等になったときのうれしかったこと、クリスマス会、こままわし、カルタ大会、いろいろ楽しいおもいでがいっぱいできました。いまは、三月にある最後の参かん日にうたう歌のはっぴょうかいのれんしゅうをしていきます。お母さんが来てくれるのでいっしょうけんめいがんばってれんしゅうしています。

ぼくのお母さんは近くにある病院にずっといます。だから、ぼくがお家にかえってくるのでおばあちゃんが家でまわっててくれます。お母さんは五時にかえってきてそれから買物、ごはんの用意、せんたく、お兄ちゃんたちの勉強とたいへんいそがしいです。だからお母さんをこまらせないようにして病気がけがなどしないで元気でいたいと思います。

小学校に入ったら勉強よう、スポーツをがんばってやり、お母さんやおばあちゃんのお手つだいをしてあげたいと思います。(兵庫県香住町・香住幼稚園)

(1) 各県における育英事業及び推進活動について

各県から、育英事業への取り組みや募金活動の実情等について報告がなされましたが、今後、お互いに事業推進上、大いに参考とすべき事項が数多くありました。

また、経済的援助のみならず遺児への精神的な励ましや、担当者や遺児との触れ合いが必要である等の意見が出されました。

(2) 育英制度の今後の方向について

教育費の増高に対応する奨学金の増額、高校生に対する奨学金について、貸与から給与への移行や、奨学生の対象に大学院、漁業協同組合学校等の在学生及び重度身体障害者等の子弟を加えることなどの可否について、建設的な意見が交わされました。



小学校六年生
中島わかめ

私の父は漁師でした。でも二年前、事故にあって、いまだに行方がわかっていません。そんな父の思い出の中で、一番心に残っているのは、私の名前をつけてくれたことと、海水浴につれていってもらったことです。

私が生まれたのは、三月です。ちょうど、この富江では、ワカメがとれる時期です。まだ冬ですから、父がとってきた冷たいワカメを祖父母が手をとって赤にしてほしていただきました。そんな時、私が生まれたそうです。祖父と父は、母が入院している間に、ワカメをとれる時期に生まれたことから、ワカメという名前にしたそうです。小学校へ入った時、友だちから名前のことと文句や悪口を言われた覚えがあります。そして父に「この名前いいやだ」と、何回も口ぐせのように言って困らせたことがあります。けれども、父はいつも、「おまえの名前は、どこへいったって、だれも持たん名前ないっ」と、いいかえしてました。私は、それでも好きにはなれませんでした。

(3) 今後の育英事業推進活動について
主に、本事業への効率的PR方法について話し合われ、関係者の本事業に対する意識を高めるため、会議などにおいて「水色の羽根」の着用、募金資材の充実などが提案されたほか、新たに他の類似募金の開始により、現場において混乱が生じ、担当者として困惑していること等の報告がありました。

以上のように多くの事項について、長時間活発な討議がなされ、今後の育英事業の一層の充実を申し合わせることを申し合わせ、閉会しました。



三年生の時、とっせん父が事故にあったという知らせがきて、私は、悲しくて悲しくてたまりませんでした。今まで父に名前のことで、はんこうしてきた私だったのですが、この時、きつと心のどこかで、自分の名前にはこりをもっていたことが分かりました。それから、悪口を言われてもがまんでできるようになりました。もしも今、父がいてくれたら、いちばんさいしよに、この私のうれしい気持ちを伝えてあげたいです。

もうひとつの父の思い出は、船で福岡から遊びにきた、いとこたちと海水浴にいったことです。お弁当をたくさんつくって、スイカやいろんなものをもっていきました。父たちは、いとおおじさんたちと魚をとりに出かけた。いとこたちと泳ぐ競争をしたり、いろんな遊びをたくさんしました。帰った時には、つかれてねていたそうです。私は、父の思い出ができて本当によかったと思います。

前までは、父がとってきた魚をあきるほど食べられました。でも、今ではテーブルにならぶおかずには魚はあまりのっていません。食べるとしたら、店で買ったものばかりです。父が事故にあってから、もうすぐ三年になります。私は、ぶつかった船がにくたらしいです。でも、その船の人もきつと事故にあったことで心をいためていることでしょう。私にとって父は、宝物です。だれにもやりたくない、そんな人です。だから

第四回選考委員会開催 新規奨学生二十五名を採用

本年度第四回の奨学生願書の受付は、一月十五日に締切り、奨学生選考委員会を二月二十九日に開催しました。

審議の結果、新規奨学生として、学資給与奨学生二十四名、奨学金貸与奨学生一名、合計二十五名の採用が決定しました。

この結果、現在の奨学生数は、四頁の表「都道府県別奨学生数」のお

らきつといつまでもいつまでも私の心の中で生きつづけてくれることでしょう。(長崎県富江町・富江小学校)

「一年の決意」



高校一年生
小笠原幸太郎

高校生になり、早や一年が経とうとしています。中学生の時にくらべ勉強も数段、レベルの違いを感じます。ふり返ると、部活で遅くまで練習をして、学校から家までの帰りの汽車の中では、疲れていつもただ眠り続けていた気がします。そんな中、時間が過ぎるのはとても早いなあとつくづく感じています。高校生活のこの大切な時間を、私は無駄にしているのではないかと、使い方を間違えてはいないか、いつも思い悩みながら現在に至っている気がします。

そこで、今年の目標・決意としては、時間を有効に使ってみようじゃないか、今まで考えていて実際に出来なかったことを、時間をかけて成し遂げてみようじゃないか、そして目標である大学合格に向けて、必死になつて勉強してみようではないか、ということとです。

たかが高校生、されど高校生、可能性を信じ、夢に向かってはばたきたいと思っています。

(若手県大槌町・釜石南高校)

り、一、〇〇四名となりました。

なお、平成四年度中の新規奨学生は、学資給与奨学生八十四名、奨学金貸与奨学生は、高校六十九名、大学等二十四名、合計百七十七名でした。

また、平成五年度に高校、又は大学等への進学を予定している奨学金貸与奨学生の今回の予約出願者は、高校十名、大学等六名、合計十六名でした。学資給与奨学生が決定いたしました。従って本年度の仮採用者数は、高校二十五名、大学等二十一名、合計四十六名となりました。

年でした。

卒業を前にして思うこと



短大三年生
河野紀子

家族や友人と離れて暮らす岡山での生活も、あつという間に三年間が過ぎました。初めは、さびしさでいっぱいだったのが、毎日の積み重ねで、この生活にも、慣れてきました。

私は、看護婦になるために、三年間勉強してきました。特に、この一年間は、実際に、病院で多くの患者さんと接しながら、看護について学んできました。人の命に関わることで、毎日の実習が、不安と緊張でいっぱいでした。人間の誕生や死の場面、退院していく人や、もう何日と、ベッド上で生活を続けている人の姿など見てきました。患者さんをはじめ、その家族の方々の、人と人との関係を通して、喜びや悲しみなどを感じながら、たくさんの方の生活を体験できました。とても忙しい毎日でしたが、充実した一年でした。

公 告

平成四年度漁船海難遺児育英事業のうち、幼稚園・小学校・中学校に在学する奨学生を対象に実施した学資給与事業、並びに大学生等奨学金貸与事業に対し、財団法人日本船舶振興会から二、一五〇万円の補助金が交付されました。ここに公告し、衷心から感謝申し上げます。

また、この補助金は、本年度も引き続き交付されます。育英事業の推進にきわめて大きな力となつております。このことを併せ公告し、同振興会に厚くお礼申し上げます。

平成五年四月
(財)漁船海難遺児育英会
理事長 鈴木 善 幸



漁船海難遺児に愛の手を!! 水色の羽根募金

(平成5年3月末現在)

注：奨学金貸与奨学生には、入学一時金のみの奨学生を含む。

漁船海難遺児に愛の手を!! 水色の羽根募金